

時事新報

明治十八年二月廿一日
土曜日
第八百九十八號
日曜日休刊

公報

○東京府告示乙第四十二號
警署及神奈川千葉茨城群馬宮城ノ六縣聯合ヲ以テ
別當規則ニ依リ奉ル明治十九年四月一日ヨリ五月二十
日迄千葉縣下千葉町ニ於テ水産物共進會ヲ開設ス
右告示候事 (規則ハ別ニ願フ)
明治十八年二月二十日 東京府知事芳川顯正

時事新報

留メシカ遣ランカ

明治十五年朝鮮ニ大院君ノ變亂アリシ以來支那政府ハ
大兵ヲ京城ノ内ニ屯在セシメテ守衛ヲ嚴シシ兵力以テ
臨ニ朝鮮政府ヲ恐嚇スルノモノナラズ重キ役人ヲ送りテ
コレヲ朝鮮當局ノ官職ニ任セシメ直接ニ朝鮮ノ内治外
交ノ政機ニ參與セシメタルガ故ニ京城ノ政府ハ勿論ハ
支那ノ隅ヨリ隔ニ至ルマデ山川草木一モ支那政府ノ威風
凛々ニ摩カザルモノナリ朝鮮小ナリト雖モ亦是レ東洋
ノ一國ナリ朝鮮野ニ今ノ有様ニ満足セズ肆ク支那ノ舊
觀ニ脱シ獨立國ノ體面ヲ全クシテ邁リテ西洋文明ノ潮ヲ
追ハント欲スル者ナキコトアラズト雖モ小ハ固ヨリ以テ
大ニ敵スベカラズ寡ハ固ヨリ以テ衆ニ敵スベカラズ滿
朝滿野事大車屈ノ風正ニ盛ナルノ時ニ當リ苟モ支
那政府ノ意ニ悖ルノ言行ヲ爲ス者アレバ朝ニ在ルト野
ニ在ルトトナリハズ都テ世ニ容レラレザルハ勿論蓋シキ
ハ一身ノ生命ヲモテ全クスルコト能ハサル者比々皆然リ去
年十二月金玉均朴泳春等所謂獨立黨ノ諸士ガ急ニ事ヲ
舉ゲテ不穩當ナル手段ヲ以テ政權ヲ奪ヒシガ如キモ諸士
ノ性急ニ事遂ニ愛ニ至リタルナラント雖モ抑テ亦事
大覺ノ勢力甚ク強盛ニシテ異主義ノ人ノ存在ヲ許サズ
金玉均氏ノ如キ國ノ獨立開明ヲ希望スルノ志士ハ大ニ
在朝當局者ノ意ニ悖ルニ來テハ屢々事ヲ擧ヘテ罪ニ陷レテ
レント又既ニ罪ニ陷レテラレタルモアリテ一日片時モ
彼等ノ事ヲ容ラズ近來ハ其勢益切迫シテ相容レズ獨立黨
自カラ進メテ事ヲ舉ゲザレバ必ズ近キ事大覺ノ爲メニ
變亂セラルベシ一途ニ進危難至極ノ地位ニ陥リ進ニ進
ミテ我レ先ツ人ヲ制スルノ策ニ出テタルハ事殊ニ於テ
變亂期ニ於テカ如ク亦以テ事大覺ノ權勢ノ強大無比ナ
ラレバ變亂スベキナリ然レモ十二月ノ變ニ事大覺中重立
タル人々ハ大抵皆彼等ノ罪ヲ以テ支那兵ガ王國ヲ
侵シテ國王ヲ擧ヒテ以來朝鮮政府ハ再ビ事大覺ノ手ニ
歸リテト雖モ變亂期ノ際政府ニ立テテ難局ニ處ス
ルノ人物ニ乏シキガ爲メ平日ハ特別事大主義ニ熱心ナ
ラス事大主義ニ傾キ居リトモ云フベキ金安集組
允中ノ輩ヲ任用シテ金氏ノ權勢ハ一時政府ヲ傾ケル
ガ如キ有様アリト雖モ蓋シ又純粹ノ事大黨ニアラザ
ル者ハ韓周永存スベキコトアラズ今ハ金氏モ既ニ朝ヲ離
レテ代リテ韓第一ノ權力ヲ占ムル者ハ事大黨ノ首領金
允植ナリト雖モ

事大黨朝鮮ノ大權力ヲ握リ去年十二月ノ變亂ニ數名ノ
領袖ヲ失ヒシト雖モ今ハ又依然タル舊時ノ天地ニ復
テ獲キノ風雨ノ痕ヲ見ズ事大黨方々歳ト云フベキ有様
ナリト雖モ其實ハ必ズシモ然レバカラズ目下朝鮮政府
ハ大ニ其力ヲ獨立黨ノ撲滅ニ盡シ所謂根ヲ絶テテ葉ヲ
枯ラス殘忍無比ノ策ヲ用ヒ婦女老幼婢僕ノ輩ニ至ルマ
テ苟クモ獨立黨ニ縁アル者ト云ヘバ必ズ其肉ヲ食ヒ其
血ヲ啜ルノ後ニアラザレバ必ズ厭キ足ラズト爲スガ如
クシト雖モ朝鮮國內多數ノ獨立黨如何ニ政府ノ暴威ヲ以
テスルトモ悉ク之ヲ屠戮シ盡シハ蓋シ實際ニ行ハルベ
カラサルコトナラン若シ獨立黨員ニシテ尙ホ國內ニ存在
シ居ル限リハ更ニ又何様ノ事ヲ企テ事大黨政府ニ向テ
何様ノ寇ヲ爲スベキヤモ測ルベカラズ例ヘバ尹稚鳳ノ
如キ元ト獨立黨中屈指ノ人物ナリ尹氏ガ嘗テ咸鏡道ニ
在ルト時自カラ訓練シタル新式ノ兵士五百名アリ此兵士
ハ去年一度京城ニ來リシガ十一月初ニ再び咸鏡道
ニ歸リテ尹氏ノ尹氏ヲシテ此精兵ヲ率ヒテ上京セシ
ムル様ノ事アリトセンカ實ニ事大黨政府ノ一大事ナル
ベシ又我輩ガ度々紙上ニ記シタル如ク朝鮮ニハ歩商債
商トテ行商ヲ營業ト爲ス商人仲間アリ其數各十萬内外
ナリト聞ケリ此等ノ者ハ懷悍無頼日本ノ博徒ニ類スル
種族ニシテ國王ノ親營ヲ始メ府縣各地方ノ兵士ハ大抵
此仲間ヨリ撰拔シタルモノナリト云ヒ現ニ去年十二月
ノ變亂後ニモ歩商債商三千人ヲ募リテ京城内ヲ巡遊セ
シメタリト云ヘリ而シテ此仲間ノ統領李喜貞李昌奎ナ
リト云フ者ハ獨立黨ニ與ニシテ罪人ナリトテ過日大
逆不道誅罪ノ刑ニ處セラレタリト云ヘバ歩商債商中ニ
ハ他ニ連類ノ者モアルベク或ハ大ニ冤ヲ抱キ居ルモノ
モアルベク何カノ機會ニ乘シテ此仲間ノ者ノ鮮起テ
爲スモ知ルベカラズ斯ノ如ク一二ノ事情ヲ考ヘ合セテ
云フベキナリ唯コノ亂機ノ際ニハ獨立黨ノ萌生セザルハ
全ク京城ニ支那兵ガ駐在シテ事大黨政府ヲ保庇シ居ル
ニ由ルナルベシ果シテ然ラバ支那兵ノ朝鮮政府ニ於テ
ハ氷ノ魚ニ於ケル乳母ノ赤子ニ於ケルト一線コレヲ
分離スルト同時ニ政府ハ頓覆シ魚ト赤子トハ斃死スル
ナラン

大黨政府ノ支那兵ヲ恃ムハ危ノ水ヲ恃ムコト也尙令國
内ニ亂亂ノ機アルモ支那兵在レバコレナラズスルコト得
ベシ實ニ調法至極ナルモノト云フベシ然レモ支那兵ハ
安リコト日本兵ヲ恐ルモスレバ砲銃刀劍以テコレヲ虐
殺セントシ無法ニ害辱ヲ加ヘテ後ノ禍ヲ顧ミズ違ニ朝
鮮政府ヲシテ謝罪償金ノ困辱ニ陥ラシム京城ニ支那兵
ナケレバ日本兵ヲ擧フ者ナシ日本兵ヲ擧ゲザレバ謝罪
償金ノ困辱ナシ此一段ニ至リテハ支那兵ハ實ニ厄介至
極ナルモノト云ハザルベカラズ然ラバ則チ斷然支那兵
ヲ謝絶センカ内地ノ不平黨一時ニ蜂起スルコト如何セン
左スレバ先ツ今日ノマ、コ永ク支那兵ノ駐在ヲ依賴セ
シカ何時又日本兵ニ害辱ヲ加ヘテ再び禍亂ヲ招クヤモ
知ルベカラズ實ニ朝鮮ノ事大黨政府ハ進退維谷ノ地位
ニ在レモト云ベキナリ

○乘馬檢査課
馬七時々檢査ス
置クヤの説あり
○改選 徒來騎
遣比都合なりト
○定額金増加
充つベキ年度俟
今度小隊を大隊
十八團を增加し
定めらるよし
○砲臺 三重縣
參謀本部海防局
○行軍演習 來
春小演習は長
地方同第九聯隊
第二大隊の紀伊
聯隊第一大隊は
到る處各種の地
形を依りて兩度
分し歩兵第八營
具等の運搬又徒
を主要とす又砲
本縣上益城郡水
大野野原に於て
行す尤試驗射擊
的場を於て施行
各小隊一門に
中隊聯射隊
各大隊聯合戰
操按照準手續
○野營演習 近
第一大隊を除く
より下總國習志
○操練科 和歌
に教授を乞居カ
非役下士官を重
○卒業生採用
て駒場農學校の
生三名のこの程
○出品携帶 會
ベキ或國委出品
の管なりト
○府縣聯合勸業
上旬に近隣府縣
○駐劄廻送 今
函館縣渡邊地用
産比同卵三十萬
○上海商況 同
一二の大手船が
へ人集強し石炭
十二萬半、鹽生
英三百十五兩の
○生糸輸出

雜報

○砲臺巡視 東京府陸軍臨時建築局長工兵中佐佐々木
直前氏之相州觀音崎砲臺巡視ため一昨十九日出發シ
たり
○官廳變報 東京始審裁判所館長、山本、岡田の三判事
ハ就レも一昨十九日司法省ニ於テ豫審掛を命ぜられ
り○三等警視永澤正常氏ハ第二屆第一課長兼務○三等
警視和田照藏氏は會計局警備課長兼務○五等警視栗屋
景明氏は第二屆第一課副長を就レも一昨十九日警視廳
に於テ仰付られ同日四等警視福岡兼辨氏の同應に於テ
會計局警備課長を免せしむる調度課長事務仰付られたり
○式部卿御用掛掛五位伯有馬頼萬氏ハ一昨十九日農
商務省に於テ准委任御用掛書記局事務取扱仰付られ
たり
○御用掛赴任 農商務省准委任御用掛連水堅實氏ハ去
る十八日東京出發上野國會議事所へ赴任しり
○醫術開業試驗主事 内務少書記官島田壽夫氏ハ一昨
十九日内務省に於テ明治十八年東京醫術開業試驗主事
仰付られたり
○鹿児島縣會 鹿児島縣に於テ十七年度地方稅支出費
目の内追加算算及右ノ對する收入算算確定のため本月
一日より臨時縣會を開きしが同七日閉會したり其
議案ハ縣會議決費、郡吏員給料補償費及府中費、縣監獄
費、監獄監獄費、縣費、縣費の五科目目して其原案金
額ハ合計三万三千三百三十三圓六十四圓ありしを縣會ハ四
千八百四十圓四十六圓二厘を減して合計二万五千四百
九十三圓十七圓八厘に議決し皆認可あり又更に十六年
度地方稅額不足ノ補充法議定のため同七日より臨時
縣會を開會したり其議案ハ郡吏員給料補償費及府中費
費金額千三百七十九圓五十九圓五厘にして同年度の現
餘即十八年度へ繰越金の内を以テ補充するの原案なり
しが即日原案は通過し閉會したり
○實用書類 目下英國へ留學中なる山階宮へ隨行せし
八田海軍少佐は同國の海軍長學校にて造船學を研究し
其實用書類を今度小野濱造船所へ廻送なしたるよし
○報告編纂 大藏省中の舊制拓使事務報告書編纂取
調は目下専ら着手中なるが來る六月中より右編纂は積
り成せる見込ありし

○生糸輸出

○生糸輸出